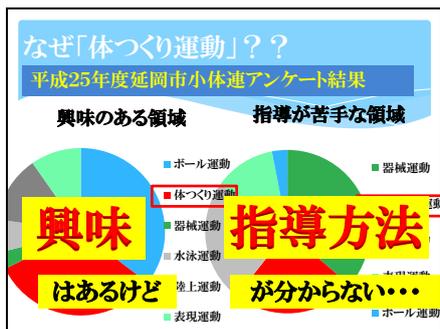




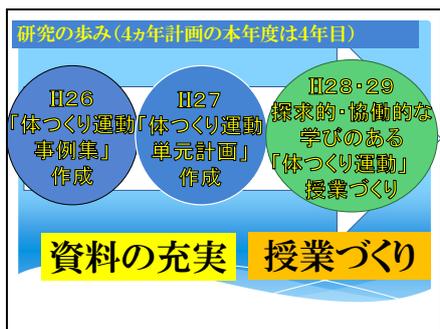
研究主題
 健やかな心と体を育み、
 生涯にわたって運動に親しむ資質
 や能力の基礎を育てる
 体育科学習の在り方
 ～探求的・協働的な学びのある
 「体づくり運動」の指導の工夫を通して～

延岡市小体連の研究主題は、「健やかな心と体を育み、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育科学習を目指して」、

副題を～探求的・協働的な学びのある「体づくり運動」の指導の工夫を通して～として、研究を進めてまいりました。



まず、なぜ「体づくり運動」領域の研究を進めてきたかという、4年前、小体連で行った教員向けのアンケート結果で、「体づくり運動」に対して、「興味」はあるけれど「指導方法」については、いまいよく分からないといった先生方が多いという実態が把握できたからです。



そこで、私達延岡市小体連は、4ヵ年計画で「体づくり運動」について研究を進めてきました。

1年目は、「運動事例集」の作成を。2年目は、「単元計画」の作成を行ってきました。初めの2年間は授業研を行いながらも、まずは「資料の充実」に力をいれてきました。

そして昨年度からは、先ほど示した副題にあった通り、探求的・協働的な学びのある「体づくり運動」になるよう「授業づくり」に焦点を当てて研究してきました。

研究目標
 体づくり運動において、
 児童一人一人が**運動の楽しさ**
 や**できる喜び**を味わうことができるような
 探求的・協働的な学習指導過程の
 工夫・改善について追究する。

そこで、研究目標を「体づくり運動において、児童一人一人が運動の楽しさやできる喜びを味わうことができるような探求的・協働的な学習指導過程の工夫・改善について追究する。」

研究仮説

体づくり運動において、児童一人一人に課題をもたせ、自分に合った場や教具を選択させたり、効果的な仲間とのかかわりをもたせたりすることで、運動の楽しさやできる喜びを味わわせれば、児童が進んで学習に取り組み、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てることができるであろう。

研究仮説を「体づくり運動において、児童一人一人に課題をもたせ、自分に合った場や教具を選択させたり、効果的な仲間とのかかわりをもたせたりすることで、運動の楽しさやできる喜びを味わわせれば、児童が進んで学習に取り組み、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てることができるであろう。」とし、

研究内容

- 1 学習指導過程の工夫
 - (1) 探求的な学習の在り方
 - ・ 一単位時間を貫く課題(めあて)のもたせ方
 - ・ 場や教具の工夫
 - (2) 協働的な学習の在り方
 - ・ 運動のポイントがわかる学習活動
- 2 学習内容の整理
 - (1) 単元計画の作成・活用
 - (2) 体づくり運動領域の運動例集の作成・活用

次の研究内容で、研究を進めてきました。

体づくり運動(小学校)

低学年	中学年	高学年
体ほぐしの運動		
多様な動きをつくる運動遊び 	多様な動きをつくる運動 ・体のバランスをとる運動 ・体を移動する運動 ・用具を操作する運動 ・力強い運動 ・基本的な動きを組み合わせる運動	体力を高める運動 ・体の柔らかさを高める運動 ・巧みな動きを高める運動 ・力強い動きを高める運動 ・動きを継続する能力を高める運動

1つ目の研究内容、学習指導過程の工夫の具体的な授業づくりをおこなっていく前に、まず、体づくり運動について、確認しました。

体づくり運動は、全ての学年で行われる「体ほぐしの運動」と、低学年では、「多様な動きをつくる運動遊び」、中学年では「多様な動きをつくる運動」、そして高学年では「体力を高める運動」で構成されています。

体づくり運動(小学校)の内容

○運動

→他の運動領域のように、特定の技能を系統的に向上させることがねらいではないため「技能」ではない。

○態度

○思考・判断



指導内容として、「運動」「態度」「思考・判断」が示されています。

ここで大きな特徴であるのが、他の運動領域のように、特定の技能を系統的に向上させることがねらいではないため、「技能」ではなく「運動」と示されていることです。

体づくり運動(小学校)「運動」のねらい 低・中学年

体力を高めることを直接の目的として行うのではなく、楽しく運動しながら、体の基本的な動きを総合的に身に付けること。

- ↓ 具体的には...
- ・動きのレパートリーを増やす
 - ・無駄な動作を少なくし、動きの質を高める



では、その「運動」のねらいはどういったことであるかというと、低・中学年では、体力を高めることを直接の目的として行うのではなく、楽しく運動しながら、体の基本的な動きを総合的に身に付けること。

具体的には、動きのレパートリーを増やしたり、動きの質を高めたりすることと示されています。

体づくり運動(小学校)「運動」のねらい
高学年
 直接体力を高めること

↓

体力の必要性や体力を高めるための運動の行い方を理解し、**自己の体力に応じて体力づくりが実践できること**



一方、高学年の「運動」のねらいは、直接体力を高めることとされ、自己の体力に応じて、体力づくりが実践できることと示されています。

体づくり運動(小学校)「思考・判断」のねらい

- ・簡単な**運動の行い方を工夫**できる。
- ・運動の行い方を知った上で、**友達の良い動きを見付ける**などの思考・判断ができる。

↓

- ・様々な動きの獲得に向けた**挑戦の場**を提供する中で、児童の自由な発想の広がりを**称賛**したり、**動きを楽しむ体験**をさせたりすることが大切。



また、体づくり運動の「思考・判断」としては、低・中学年では、簡単な運動の行い方を工夫できること、高学年では、さらに友達の良い動きを見付けることと示されています。

そのため、様々な挑戦の場を提供したり、児童を称賛したり、動きを楽しむ体験をさせたりすることが大切です。

探求的・協働的な学習

探求的な学習

運動やスポーツの楽しさや健康の意味及びそれらの価値をふまえ、運動や健康についての自らの課題に気づき、その課題解決に向けて**試行錯誤を繰り返しながら学びを進めること**



これまで述べてきたように、「体づくり運動」の内容やねらいを踏まえ、さらに、学習指導要領改訂の「主体的・対話的で深い学び」の流れを受け、学びの質や深まりを重視するため、探求的・協働的な学習に焦点を当てた授業づくりに取り組んできました。

そして、延岡市小体連としては、探求的な学習をこのように捉えました。

探求的・協働的な学習

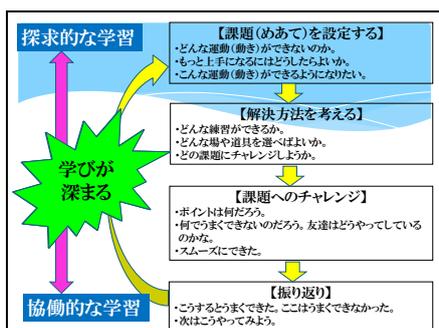
協働的な学習

運動・スポーツや健康について、自らの課題の解決に向けて**児童同士、児童と教師、さらに児童と知識がかわり合いながら、話し合ったり、教え合ったりして学びを深めていくこと**



また、協働的な学習をこのように捉えました。

はじめに、「探求的な学び」というものがどのようにすれば展開されていくか、その学びのプロセスを整理しました。



まず、課題を設定する段階。次に、解決方法を考える段階。そして、課題へチャレンジする段階。最後に、振り返る段階。というプロセスです。そして、この振り返りを行うことで、新たな「課題」が生まれ、学びが深められていくのではないかと考えました。さらに、この「探求的な学習」に「協働的な学習」が加われればさらに深い学びが行われるのではないかと考えました。

研究内容

1 学習指導過程の工夫

(1) 探求的な学習の在り方

- ・ 一単位時間を貫く課題(めあて)の
もたせ方
- ・ 場や教具の工夫

(2) 協働的な学習の在り方

- ・ 運動のポイントがわかる学習活動

2 学習内容の整理

(1) 単元計画の作成・活用

- (2) 体づくり運動領域の運動例集の作成・
活用

では、ここから研究内容について、具体的に説明していきます。

まずは、学習指導過程の工夫の探求的な学習の在り方についてです。

探求的な学習

1単位時間を貫く課題(めあて)の もたせ方

みんなの課題(めあて)

一人一人の課題(めあて)

課題(めあて)の振り返り



探求的な学習を進めてく上で、まずは、児童一人一人が一単位時間で自分の課題をしっかりとつことが大切だと考えました。そこで、導入段階では、クラス全体の課題を提示した後、本時の学習内容を確認し、児童一人一人がより具体的に自分に合った課題を設定するようにしました。そして、その課題を達成するためには、どんな場や道具で運動をすればよいかを考えながら活動を行うように意識させました。

また、授業の最後には必ず振り返りの時間を設定し、授業の最初に自分が設定した課題が達成できたかどうか、今日の学習でどんな気付きや発見があったかなど、振り返りをさせました。そうすることで、新たな課題を見つけることができ、次時の学習へとつなげることができると考えます。

探求的な学習

1単位時間を貫く課題(めあて)の もたせ方



自分が投げている姿の連続写真



客観的に自分の課題を見つけさせる

一人一人に課題をもたせる手立ての一つとして、自分が投げている姿の連続写真を見せて、客観的に自分の課題を見つけさせたりもしました。

探求的な学習

工夫する時間の位置付け

4つの運動遊びを均等に配当した計画

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
体のバランスをとる運動遊び (授業の前半)						体を移動する運動遊び (授業の後半)					
用具を操作する運動遊び (授業の後半)						力試しの運動遊び (授業の後半)					

動きを確認しながら運動する時間

「用具を操作する運動遊び」を毎時間配当した計画

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
体のバランスをとる運動遊び			体を移動する運動遊び			力試しの運動遊び			用具を操作する運動遊び					

「体づくり運動」では、「思考・判断」として、児童が運動の行い方を工夫できることがあげられています。そのため、基本的には、「動きを確認しながら運動する時間」と「運動を工夫する時間」を設定します。

このように、動きを確認した後に「工夫する時間」を設定したり、

探求的な学習
工夫する時間の位置付け

「基本的な動きを組み合わせる運動の時間」を十分確保した計画

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
体を揺動する運動			体のバランスをとる運動			用具を操作する運動			用具を操作する運動又は体のバランスをとる運動		基本的な動きを組み合わせる運動
力試しの運動											

動きを確認しながら運動する時間 動きを選び、工夫しながら運動する時間

「動きを選び工夫する時間」を毎時間設定した計画

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
体のバランスをとる運動			用具を操作する運動			体を移動する運動			力試しの運動		
動きを選び工夫する時間			動きを選び工夫する時間			動きを選び工夫する時間			動きを選び工夫する時間		

単元の後半にのみ設定したり、このスライドの下のように、1単位時間の中に「動きを確認する時間」と「工夫する時間」を設定したりする場合と、様々あります。

授業を組み立てていく上で、発達段階や児童の実態に合わせて、「工夫する時間」の位置付けをどのようにするかも考慮しました。

探求的な学習
工夫する時間の位置付け

人数、回数、距離、時間、姿勢、用具、方向などを変えること
ゲーム性をもたせること

工夫しよう

- 人数を変えてやってみよう
- 2人→3人→4人→全員
- 動きを増やしてみよう
- 立つ・すわる→回る→歩く
- 道具を使ってやってみよう
- ボールをせ中にはさんで
- 向きを変えてやってみよう

そもそも、運動を工夫するとは、「人数、回数、距離、時間、姿勢、用具、方向などを変えること。」「ゲーム性をもたせること。」と捉え、児童にも、工夫の視点として、児童のこれまでの学習経験に基づき、このように、示したりもしました。この経験を重ねて、児童が工夫の視点を示さなくても自分達で自由に工夫できるようになると考えます。

探求的な学習
場や教具の工夫

- ・動きのレパートリーを増やす
- ・無駄な動作を少なくし、動きの質を高める
- ・自己の体力に応じて体力づくりを実践する

場や教具を工夫することが効果的

自分に合った場や教具の選択
段階的な場や教具の選択

次に、探求的な学習の在り方として、場や教具の工夫についても取り組みました。体づくり運動のねらいを考えると、場や教具を工夫することが効果的だと考えました。場や教具を工夫することで、児童が自分に合った場や教具を選択したり、段階的な場や教具を選択したりことができ、運動の楽しさや体を動かす心地よさを感じたり、結果として、動きの質が高まったりすると考えます。



これは第1学年の様子です。低学年では、自分で選択させるというよりは、いろいろな場や教具を順番に体験させました。



一方第6学年では、同じ動きの中でも、自分の課題に合ったものを児童自身に選ばせて運動をさせました。

研究内容

1 学習指導過程の工夫

(1) 探求的な学習の在り方

- ・ 一単位時間を貫く課題(めあて)の
もたせ方
- ・ 場や教具の工夫

(2) 協働的な学習の在り方

- ・ 運動のポイントがわかる学習活動

2 学習内容の整理

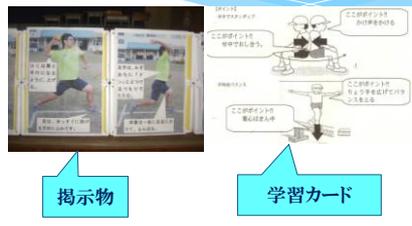
(1) 単元計画の作成・活用

(2) 体づくり運動領域の運動例集の作成・ 活用

協働的な学習

運動のポイントがわかる学習活動

児童と知識のかかわりのある学習活動



協働的な学習

運動のポイントがわかる学習活動

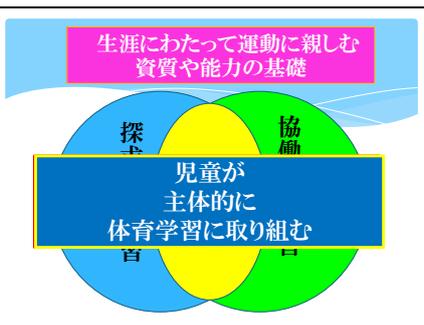
児童と教師のかかわりのある学習活動



協働的な学習

運動のポイントがわかる学習活動

児童と児童のかかわりのある学習活動



続いて、学習指導過程の協働的な学習の在り方、運動のポイントがわかる学習活動について説明します。

まず、「児童と知識のかかわりのある学習活動」についてです。児童一人一人が主体的に活動を進めていくためには、導入時や授業の途中で、運動のポイントを押さえることが大切だと考えました。児童同士のかかわりをより活発に行わせるためにも、児童が運動のポイントをわかっていたり、意識したりする必要があったと考えたからです。そのため、見本となる動きやポイントを写真やイラストで提示したり、学習カードに記載したりするようにしました。

次に、「児童と教師のかかわりのある学習活動」についてです。運動のポイントがわかるためには、児童が運動を行う中で気付いていくこともありますが、教師が教える場合もあります。どちらの場合においても、ポイントを共有する時間が必要となります。また、上手に動ける児童を取り上げて称賛したり、教師が適宜肯定的な声掛けをすることで、運動のポイントがよりわかっていき、運動を行う上でより意識して運動ができるのではないかと考えました。

そして、児童同士のかかわりです。前述したように、知識や教師がうまくかかわっていくことで、ペアやグループで活動する際に、友達同士で適切なアドバイスを行ったり、よい動きに気付いたり、工夫を広げたりすることができ、その結果運動の質を高めたり、楽しさを感じたりできると考えました。

これまで述べたように、探求的・協働的な学習を行うことで、「運動が楽しい」「運動の仕方がわかった」「運動ができた」という気持ちになり、児童が主体的に体育科学学習に取り組めると考えます。そして、ひいては、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てることができると考えます。

研究内容

1 学習指導過程の工夫

(1) 探求的な学習の在り方

- ・ 一単位時間を貫く課題(めあて)のめあて

- ・ 場や教具の工夫

(2) 協働的な学習の在り方

- ・ 運動のポイントがわかる学習活動

2 学習内容の整理

(1) 単元計画の作成・活用

(2) 体づくり運動領域の運動事例集の作成・活用

最後に、学習内容の整理について説明します。

学習内容の整理

単元計画の作成・活用

単元	1	2	3	4	5
単元名	運動の楽しさを味わう				
単元目標	運動の楽しさを味わう				
単元計画	1. 運動の楽しさを味わう ① 運動の楽しさを味わう ② 運動の楽しさを味わう ③ 運動の楽しさを味わう	2. 運動の楽しさを味わう ① 運動の楽しさを味わう ② 運動の楽しさを味わう ③ 運動の楽しさを味わう	3. 運動の楽しさを味わう ① 運動の楽しさを味わう ② 運動の楽しさを味わう ③ 運動の楽しさを味わう	4. 運動の楽しさを味わう ① 運動の楽しさを味わう ② 運動の楽しさを味わう ③ 運動の楽しさを味わう	5. 運動の楽しさを味わう ① 運動の楽しさを味わう ② 運動の楽しさを味わう ③ 運動の楽しさを味わう

延岡市内の先生方が、誰でも自信を持って「体づくり運動」領域の指導を行えるように、「単元計画」を作成しました。

学年ごとに指導内容の明確化を図り、単元構成を意識した授業づくりが行えるようにしました。これにより、教えるべき内容が重複して指導されたり、指導されない内容があったりするという事も避けられると考えます。

学習内容の整理

体づくり運動領域の運動事例集の作成・活用

【単元】 準備・マット
【人】 同級生
【内容】 準備・マット
① 準備・マット
② 準備・マット
③ 準備・マット



【指導】 準備・マット
① 準備・マット
② 準備・マット
③ 準備・マット

また、体づくり運動領域の運動事例集も作成しました。研究1年目に一度作成しましたが、先ほど紹介した単元計画に沿って、昨年度再度作成し直しました。準備するものや人数、運動の方法など、細かく提示することで、すぐに授業で用いられるようにしました。

成果と課題

成果

- 児童が主体的で意欲的に学習に取り組むことができ、さらに次の課題を見つけ、自分の課題(めあて)に合った運動をする姿が見られた。
- 多様な場や教具を準備することで、児童が運動の行い方を工夫し、楽しく運動に親しむ姿が見られた。
- これまでの児童同士のかかわりだけでなく、さらに広い意味での協働的な学習を行うことができ、児童がより運動が「わかる」「できる」と感じる事ができた。

成果と課題です。まず、成果です。

探求的・協働的な学習を進めることで、児童が主体的で意欲的に学習に取り組むことができ、さらに次の課題を見つけ、自分の課題に合った運動をする姿が見られました。

また、多様な場や教具を準備することで、児童が運動の行い方を工夫し、楽しく運動に親しむ姿が見られました。そして、協働的な学習をこれまでの児童同士のかかわりだけでなく、対教師、対知識と、さらに広い意味での協働的な学習を行うことで、児童がより運動が「わかる」「できる」と感じる事ができました。

成果と課題

課題

- 探求的・協働的な学習を行っていく上で、教師が評価をし児童にフィードバックを行うことは大変重要である。しかし、評価の行い方や評価と指導のつながり等の研究が不十分であったため、評価に関する研究が必要である。
- 学習指導過程や単元計画、運動事例集を作成したが、体育主任を中心にさらなる活用を図る必要がある。

次に、課題です。

探求的・協働的な学習を行っていく上で、教師が評価をし児童にフィードバックを行うことは大変重要です。しかし、評価の行い方や評価と指導のつながり等の研究が不十分であったため、評価に関する研究が必要であると考えます。

また、学習指導過程や単元計画、運動事例集を作成しましたが、延岡市内の先生方へ十分に広めることができていないので、各校の体育主任を中心にさらなる活用を図る必要があると考えます。



授業の視点

- 1 探求的な学習の在り方
 - ・ 課題(めあて)設定とその解決について
- 2 協働的な学習の在り方
 - ・ わかる学習活動について